

2018年度

苫小牧聖ルカ幼稚園

評価欄に入れる記号

A	おおむね良い
B	普通
C	あまりできていないので、一部検討を要する

14 (人)

評価分類		内容	A	B	C
I 保育の計画性	1 園の教育理念・教育目標の理解	① 園の教育理念や教育目標を理解し共感している	7	7	
		② 園の教育理念に基づいて教育目標について園長や主任・教職員と話し合い、保護者に説明できる	5	9	
	2 幼稚園教育要領の理解	① 幼稚園教育要領を読み、園長や主任・教職員と話し合っ理解に努めている	3	11	
	3 教育課程の編成	① 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育理念・教育目標を基に編成している	5	9	
		② 園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てている	5	9	
	4 指導計画の作成	① 指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成している	7	7	
		② 指導計画は幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるような順応性のあるものになっている	9	5	
	5 環境の構成	① 安全で清潔感のある環境構成をしている	14		
		② 幼児が主体的にかかわりたくなるような素材や遊具を考えて環境構成をしている	11	3	
		③ 遊びに必要な遊具や用具、素材などを質・数量に配慮して用意している	10	4	
		④ 園地・園庭の樹木や草花の名前、季節による変化などを理解し、環境構成に生かすようにしている	5	9	
		⑤ 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている	10	4	
6 評価・反省	① 自分の保育についての評価・反省をいくつかの観点から行っている	8	6		
	② 自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かせるようにしている	9	5		
II 保育の在り方、幼児への対応	1 健康と安全への配慮	① 朝の登園時には特に視診を大切にし、子どもの体調が悪くないかを確認している	13	1	
		② けがや事故に気をつけ、万一、事故やけがが発生した場合は、園長に報告し、保護者に連絡をとり、医師に見てもらうなど適切な処置を行っている	14		
		③ 園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される場合は安全な遊び方について幼児と一緒に考えるようにしている	13	1	
		④ 園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配っている	13	1	
	2 幼児理解	① 一人ひとりの幼児をよく観察すると同時に周囲にも目を配るようにしている	13	1	
		② 幼児の話をよく聞き、幼児の思いを受けとめるようにしている	13	1	
		③ 個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解できるようにしている	9	5	
		④ 幼児同士のかかわりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解できるようにしている	10	4	
		⑤ 幼児たちが今、興味や関心をもっていることを知るようにしている	10	4	

Ⅲ 保育者としての資質と能力		⑥ 幼児の理解のために家庭との連携をとるようにしている	6	8	
		⑦ 幼児の姿を多面的に捉えるように心がけるようにしている	11	3	
	3 指導とかかわり	① 幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動するようにしている	13	1	
		② 幼児が理解しやすいような、正しい言葉を使うようにしている	10	4	
		③ 幼児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、かかわり方をしないようにしている	12	2	
		④ 善悪の判断、思いやりなどの道徳性を培ううえでのモデルとなるように心がけている	11	3	
		⑤ 幼児の一人ひとりのありのままの姿を受け入れ、その子のよさを認めるように心がけている	12	2	
		⑥ 幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにしている	13	1	
		⑦ 幼児が遊びを深めていくための、適切な援助をするように心がけている	12	2	
		⑧ 幼児の年齢に応じた援助の仕方を工夫している	10	4	
		⑨ 幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をしている	10	4	
		⑩ 幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がけている	10	4	
		⑪ 幼児を無視したり、体罰を加えたりすることは、どのような場合もしないようにしている	14		
	4 保育者同士の協力・連携	① クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉がけや対応をするように心がけている	13	1	
		② クラスの環境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換し合っている	10	4	
		③ 幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解をするように心がけている	11	3	
		④ 他のクラスや異年齢の幼児たちと触れ合うような、さまざまな工夫、保育の形態を取り入れている	8	6	
	1 専門家としての能力・姿勢・義務	① 幼児の性格や個性を把握し、幼児の考えや感じていることを理解するようにしている	12	2	
		② 保護者に対し、幼児や自分の保育のことをわかりやすく話し、保護者との信頼関係を築くよう努めている	13	1	
		③ 保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心がけている	12	2	
		④ 幼稚園には自分自身のプライベートな生活をもち込まないようにしている	12	2	
⑤ 幼児や保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている		11	3		
⑥ 服装、髪形、身だしなみなど、清潔感のあるものを心がけている		14			
⑦ 職務上、知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守るように心がけている		12	2		
⑧ 園の重要書類は持ち出さないようにしている		10	4		
⑨ 締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守るようにしている		14			
2 組織の一員としての在り方	① 教職員全員で一つのチームであることを自覚するように心がけている	13	1		
	② 他の意見を素直な気持ちで聞いて、自分の意見を述べるよう努めている	12	2		
	③ 子どものこと、クラスの出来事などで必要なことは園長や主任に報告、連絡、相談をしている	14			
	④ 当番や役割による仕事は確実にこなしている	11	3		
	⑤ 園や保育者に関することについては、軽はずみに他に話さないように心がけている	14			

	3	保育の楽しみ・喜び	① 幼児の成長を自分の喜びと感じることができる	14			
			② 幼児と一緒に生活を創りだすことを楽しいと感じることができる	14			
IV 保護者への対応	1	情報の発信と受信	① 保護者に個々の幼児の様子を伝える工夫をしている	10	4		
			① 保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がけている	12	2		
	2	守秘義務の遵守	① 保護者の住所、電話番号など個人情報の管理については園の方針に従っている	14			
			② 個々の幼児や保護者、家族の情報は口外しないようにしている	14			
	3	対応上のマナー・心がまえ	① 日常生活において、その場にあった正しい言葉を使うようにしている	13	1		
			② 電話は、相手が見えないために誤解が生じやすいことを心に留め、簡潔にわかりやすく話すことを心がけている	14			
			③ 保護者からの依頼や伝言については、メモをするなどきちんと対応している	13	1		
	4	クレームへの対処の仕方	① 保護者からクレームがあった場合は、まず謙虚にその話を聞き、園長に報告、連絡、相談をしている	11	3		
			② クレームの内容によっては教職員全体で検討し、共通理解のうえで対処している	9	5		
	V 地域の自然や社会との関わり	1	地域の自然・人々のかかわり	① 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わすように心がけている	10	4	
				② 地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努めている	5	9	
				③ 地域の自然や機関についてマップを作成するなど、利用しやすい工夫をしている	1	5	8
2		小学校との連携	① 小学校の教育内容について理解するよう努めている	2	10	2	
			② 地域の小学校の行事や公開授業に関心を持っている	2	8	4	
3		子育ての支援と地域への開放	① 子育て支援や地域開放について具体的な内容を理解するよう努めている	6	8		
	② 子育ての支援や地域開放について、教職員全体で話し合っている		5	9			
VI 研修と研究	1	研修・研究への意欲・態度	① 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している	5	6	3	
			② 自分の保育について自己課題をもって評価・反省を行っている	5	8	1	
			③ 自分の保育の在り方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談している	9	5		
	2	保育者としての専門性に関する研修・研究	① 幼児の発達理論を学び、保育にいかすための研修・研究を行なっている	4	9	1	
			② 記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行なっている	3	10	1	
			③ 教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行なっている	2	11	1	
			④ 保育記録に基づいた評価方法と計画に関する研修・研究を行なっている	2	10	2	
			⑤ 幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行なっている	4	9	1	
			⑥ 保護者への対応に関する研修・研究を行なっている	3	10	1	
			⑦ 地域社会との交流に関する研修・研究を行なっている	2	9	3	
			⑧ 保育者同士の協力・連携に関する研修・研究を行なっている	3	11		
	3	今日的課題に関する研修・研究	① アレルギー、自立の遅れなど、最近多く見られる問題について理解している	6	8		
			② 障がいのある幼児の理解と対応について研修している	8	7		
			③ 預かり保育や子育ての支援について研修している	1	10	3	
			④ 幼小連携の必要性や具体的方策について研修している	1	12	1	
⑤ 危機管理の必要性と対応について研修している			4	9	2		

## 2018年度 自己評価（教職員編）の結果及び改善策

## I 「保育の計画性」についての評価結果及び改善策

- ・担任の先生が立案した指導計画のもと、ねらいを理解して保育に臨むようにしている。
- ・日々の保育に追われ計画的には難しい点があるが、保育雑誌と今の子供たちの育ちを照らし合わせ行なっている。保育部に関して事前の話し合いが全く行われず、色々な面で課題が残る。しっかりした計画、打合せの必要性、全員の共通理解が今後もっと必要になってくると考える。
- ・年間計画に基づき個々に合った指導を心掛ける、行事に追われる日々ではあるが計画性を持って行ないたい。
- ・今年度、保育補助としてこども園で勤務し、個々の成長や性質に合わせた柔軟性のある計画が必要であると感じた。
- ・年度始めに計画を立て、幼児の変化に合わせて変更しながら計画している。その日の天候や人数により保育を変える場合は準備不足な場合もあるが、保育者同士の連携で臨機応変に対応できている。
- ・各クラスの実態を踏まえうえで子供たちの生活や遊びを大切にしたい保育になるようにと、丁寧に計画が立てられている。しかし子供と保育者の意図するところにズレが生じてしまう目もあり、毎日の振り返りの中、担任1人で悩まずに職員間で相談しながら進めて行けるように努めていた。
- ・0.1.2歳児については保育の計画を立てる難しさがあつた。子供の様子を見ながら他の保育者と話し合い日々計画を立てて行った。日案、週案、個別記録なども今年一年の反省を踏まえて改善していく必要があると思う。
- ・子供の成長に即した計画を立てているが、その日その時の子供の様子に合わせた活動の展開を重視している。
- ・保護者は自ら答えられるようにしっかり頭に入れなくてはならない。
- ・担任の考えを尊重し、適切な助言が出来るよう心掛けている。

## II 「保育の有り方、幼児への対応」についての評価結果及び改善策

- ・子供の思いに寄り添い、丁寧な対応を心掛けています。また年齢ごとの発達についても理解できるよう努めている。
- ・幼児への関わりは大人の数を増やすだけでは難しい点が多々ある。改善をお願いしたい。
- ・神様から預かった子供たちを大切に、愛情深く育てたいという考えのもとに、その子に合った関わりをしていきたい。
- ・様々な幼児がいる中で個々の成長、個性を理解するのは難しいが保育者間の話し合いを密に個々に合わせた保育を心掛けている。
- ・個々に合った言葉がけや育ちの手伝いができるように子どもの発達の違い（個人差）を理解した上で配慮した対応をしていきたい。
- ・0.1歳児は個々の成長や、月齢によっても関わり方や保育内容が違ってくるので、幼稚園としてどう対応しよう保育していくかを保育者間で共通理解していく必要を感じた。
- ・安心、安全の提供を常に考えゆとりを持って関わりたいと思う。また一人一人の姿を個性として認めてあげたい。
- ・保育者として子どもの見本にならなくてはならないので、行動や言動には気をつけなくてはならないと思う。
- ・幼児の気持ちを考え、保育に臨むように努めている。

## III 「保育者としての資質と能力」についての評価結果及び改善策

- ・反省点やその日気付いたことなどは、自分個人に留めず話をして次の保育に活かせるようにしたい。
- ・自分の立場、心構えが中途半端でこのままで良いのか？との思いが強く迷いが多かった。目の前の子供を一番考えてこれから関わっていききたい。
- ・資質、能力、私は子供達にとってこれで良いのか？と自分に問いかけ、反省する毎日だった。たくさんの先生達の良い所を見ながら足りない部分を補わなくてはならないと思う。

## IV 「保護者への対応」についての評価結果及び改善策

- ・園での子供の様子を伝え丁寧に関わるように気をつけている。特に担任の先生への連絡は漏れない様に気をつけたい。
- ・保育士が時間差勤務なので、保育士同士が共通理解の上で対応するようになってきたが、最終責任など課題が残る。
- ・誠実に保護者と向き合いながら子供たちの様子を伝える、連絡帳のやり取り、電話での連絡とコミュニケーションを取りながら信頼を深めている。
- ・言葉が足りなかったり誤解を招いたりすることもあると思うが、他の保育者へ情報をオープンにしていることでフォローし合っていると思う。
- ・保護者の思いや不安な気持ちを受け止め、どんなことにも丁寧に聴いたり答えたりできるように努めた。また今後も子育ての大切さや喜びなどに共感し、信頼関係を築けるようにしていきたい。

- ・小さい子供を預けて働く保護者に寄り添いながら、一緒に子供の成長を見守ってきた。毎日の様子を送迎時に伝え、安心して預けてもらえるように心がけてきた。
- ・丁寧な対応を常に心がけている。保護者に伝えることの難しさを感じる。
- ・保護者の対応は難しいこともあるが自分でできる事は保護者に失礼がないよう気をつけ、連携を取るようになっている。
- ・丁寧な対応で、幼児の様子を伝えるよう気をつけている。

## V 「地域の自然や社会とのかかわり」についての評価結果及び改善策

- ・地域の公園や施設に遊びに行ったりして、春夏秋冬の季節ごとの自然の触れ合いができていたと思う。
- ・担当の子供により関わりは難しい。
- ・園側からは行動は起こしていないが近隣の施設から花壇のお手伝いを頼まれ、良い機会をもらったと思う。また文化公園、海、科学センターなど近くにあることで保育には活かしていると思う。
- ・散歩や近隣施設へ行く時には率先して挨拶を心掛けている。
- ・近隣の小学校の施設を利用したり連絡を取り合ったりして、小学校との交流を持つきっかけを作りたい。
- ・自然との関わりを大切にしたい。様々な自然体験は乳幼児にとって心の安定、感動、生活習慣における育ちにつながると思う。
- ・地域はあまり関わりがなく、会った人には挨拶しているがそこまで関わりはないと感じている。
- ・地域を散策する折には、草花の名前を幼児に伝えるようになっている。

## VI 「研修と研究」についての評価結果及び改善策

- ・研修については個人的に積極的に参加できませんでした。文献など積極的に読み保育者としての専門性を高めたい。
- ・日々の保育に追われ、勤務体制などにより自分に余裕がなかった。時間差勤務など勤務体制をしっかり整えて欲しい。
- ・保育にすぐ活かせるような研修に行かせてもらい日々の保育に役立っている。
- ・こども園に移行し、特に乳児期の子供の発達の段階を理解しておくことは大切であることから、今後は各学年の発達についての研修や研究を積極的に進めていきたい。
- ・研修に出る機会は少なかったが、育児や乳幼児の保育について本を読んで勉強することは多かった。
- ・乳幼児についての研修を深めたいと思う。
- ・自分の勉強になることや興味がある事はなるべく研修に参加するようにしている。
- ・研修会に参加の機会はあまりないが、本を読んだり保育雑誌などに目を通すようにしている。